先輩アンケート

Akira Online Japanese School TOKYO

2025年3月06日

01

就業環境

Q.（他スクールと比べて）どのような受講生の方が多いと思いますか。教えてください。



A.単に「日本語を学びたい」というより、具体的な目的があり、効率と質を重視する受講生が多いように感じます。また、一般的な日本語学校のカリキュラムでは物足りなかった方や、間接法でのレッスンによる文法や語彙などのしっかりとした理解を求める方も多いです。

A.経済力があり、意識が高い。費用対効果を気にする。日本語の習得に対して本気度が高い。社会的ステータスが高い。

Q.（他スクールと比べて）どのような受講生の方が多いと思いますか。教えてください。



A.明確な目標や目的があり、意欲的で、効率性や成果重視の方が多いと思います。

A.より効率的に日本語を習得したいと考えている方が多いと思います。

A.以前経験したプラットフォームと比べると、層がある程度絞られていると思います。

Q.（他スクールと比べて）どのような講師の方が多いと思いますか。教えてください。



A.ただ「日本語を教える」だけでなく、成果を出すことを意識し、そのために必要な自己研鑽を続けている講師が多いと感じます。受講生のゴール達成のため、文法などの理解や英語での説明力を高める努力を重ねたり、レッスンでの反応や成果を分析して指導方法を改善し続けてたりしている方ばかりで、私自身、日々刺激を受けています。

A.良い意味で日本語教師としてのプライドが高い。レッスンのクオリティを気にする。全体的に講師の教養レベルが高く、人間性にも優れていて、講師同士でも円滑なコミュニケーションが取れる。すべての講師に向上心があり、主体性がある。

Q.（他スクールと比べて）どのような講師の方が多いと思いますか。教えてください。



A.プロ意識を持って、常に自己研鑽を続けている方が多いと思います。また、日本語教師としての知識はもちろん、様々な能力や経験を持って、多方面で活躍されていらっしゃる方が多いです。

A.自身の経験のみに頼らず、新しいことに対して積極的に取り組み、学ぼうとする意欲のある方が多いと思います。

A.お茶会での感想ですが、まじめで向上心がある人、気持ちがやさしく利他的な人が多いです。知りたいことや困っていることを、みんなで解決しようとする雰囲気があります。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

1位

認定試験

A. １つ目の理由は、認定試験を受けることを通して、このスクールで求められていることと自分の能力のギャップを確認することができ、最低限身につけておくことが明確になるからです。

２つ目の理由は、この試験に合格することを目指して学習することが、日々のレッスンで求められる知識や考え方に直結するため、講師としてのレベルアップに繋がると感じているからです。

A.他のスクールとは一線を画す講師クオリティが、認定試験の存在によって保たれている。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

1位

認定試験

A.講師の知識・スキルを高め、スクール全体の指導の一貫性を確保し、受講生に質の高い学習を提供できる仕組みだと思うからです。

個人的にも、ただ経験を積むだけでなく、文法・語彙の教え方、学習コーディネート、フレームワークの理解度を数値化・可視化でき、自分の弱みが明確になることで、次のゴールを設定しやすくなると感じます。

スクールの理念やメソッドを全講師が一定レベルで理解・実践できるという指針にもなるため、受講生が「ここなら質の高いレッスンを受けられる」と信頼できる環境を作れる点もいいと思います。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

2位

Slack

A. 過去の事例を見て、具体的にどのようにレッスンを進めたらよいか、参考にしています。また、他の講師の方が共有してくださった教材・板書なども、レッスンをするうえでとても勉強になっています。

A.マネージャーとのコミュニケーションがとりやすく、過去のログも確認しやすいため、業務を円滑に進めることができるからです。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

2位

Q面談×目標管理

A.目標を立てるだけでなく、目標の立て方と目標達成のための方法について、客観的な意見をもらうことができるからです。

A.目標管理をすることで、達成のためのステップを明確にできること、また面談で共有・相談できることで、モチベーションアップに繋がっていることが理由です。年に４度も面談があることは、とても大きなサポートだと感じています。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

2位

各種研修

A. 日本語教師としての知識・スキルだけでなく、ロジカルシンキングなど、スクール外でも役に立つ知識・スキルを学ぶことができるからです。

A.日本語学校での教師経験がないため、レッスンに直結する知識やスキルを教えていただき、大変勉強になっています。研修内容は効率的に組み立てられていると共に、講師が考える力をつける内容にもなっていると感じています。研修で学ばせていただいたことは、私にとって宝物となっていると実感しています。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

2位

お茶会

A.講師同士で切磋琢磨しあえる。スキルアップのためのヒントをシェアしあえる。悩みを相談できる。相談して共感を得られるだけでなく、解決につながるアドバイスがたくさん得られる。

スキルアップ、メンタルサポートの両面において素晴らしい互助制度。在籍されている講師のみなさんがそれぞれ素晴らしい。他のスクールでお茶会があったとしても、たぶん同じようにはならない。

A.疑問点を解消したり、レッスンのヒントを共有したりする場。チャットではなく、参加者と話して解決できる点が良いと思う。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

2位

担当マネージャー制

A. 自分の仕事の状況を気にかけてもらえているという安心感がある。また、講師のステップアップや就労環境の改善に留意してくれている姿勢が伝わってくる。会社に対する信頼度が増す。

A.壁に当たったり迷ったりした時に、道筋を提案してくれるのが良いです。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

3位

録画FB

A.実際のレッスンの録画を基に、具体的な改善点と指導方法をコメントしてもらえる。感覚的な良い悪いではないため、効果的にスキルを向上できる。

Q.スクールの仕組みについて、特に良いと思うものを3つ教えてください

3位

評価制度×報酬体系

A.受講生の目標達成、講師の成長、スクール全体のクオリティ向上がすべて連動する仕組みだと思います。客観的な指標で評価されるため、納得感とやる気に繋がります。特に、外部テストの結果が指標になっているため、常に「どのように教えれば成果が上がるか」を考える習慣がつきます。良い仕組みだと感じています。

Q.（他スクールと比べて）どのようなスクールだと思いますか。教えてください。



A.単に日本語を教える場ではなく、受講生の成果の最大化に徹底的にこだわり、科学的な学習メソッドと講師育成の仕組みを整えた、プロフェッショナルなスクールだと感じています。

A.日本語の教え方が上手いというよりは、ロジカルで合理的な思考ができる、あるいはそのような思考法に興味がある方が活躍しやすいスクールだと思います。

A.日本語教師として確実にスキルアップできる。講師のクオリティが高い。適度な距離感で付き合える。誇りを持って仕事ができる。

Q.（他スクールと比べて）どのようなスクールだと思いますか。教えてください。



A.ターゲット層を絞っているスクールだと思います。教え方も絞られたターゲット層に合わせてデザインされていると思います。

A. アッパー層のニーズに応えられるスクールだと思います。そのため、常にプロフェッショナルであることを意識し、日々成長していけるスクールだと思います。

02

現在の業務

Q.ご自身の業務について、どのようなときにやりがいを感じますか。教えてください。



A.受講生の成長を感じ、自分自身も講師として成長できたと感じるとき、特にやりがいを覚えます。例えば、受講生が自信を持って話せるようになったときや、「試験に合格した！」と喜んでくれたときなどです。

A.受講生様から、「わかった」「できた」という体験をご報告いただいたとき、やりがいを感じます。ご旅行時やアニメ視聴時、日々の日本人とのやりとりの際など。

Q.ご自身の業務について、どのようなときにやりがいを感じますか。教えてください。



A.受講生のレベルアップを実感したとき。一般的な告示校での授業よりも、一段階上のレベルの解説・演習などを実施できたとき。疑問が解決したという受講生の表情が見られたとき。受講生の求めるものを提供できたとき（=「こういう練習がずっとしたかった！」「今日のレッスンはとてもためになった！」と言われたとき）。

A.試験に合格した、日本人と円滑にコミュニケーションができるようになったなど、受講生さんに成果を実感していただけたときです。

Q.ご自身の業務について、どのようなときにやりがいを感じますか。教えてください。



A.受講生様がよくご理解されていなかった時に、説明が上手く出来て、理解できたことを喜んでくださったとき。満足気な表情が見られたとき。また、デビュー当初よりもスムーズにレッスンが出来たり、質問に的確に答えられたりしたとき。自身の成長を実感する。

Q.ご自身の知識・スキルについて、どのような点に課題を感じていますか。教えてください。



A. 受講生ごとにより最適なレッスンができるようになることです。そのために、教え方や導き方の引き出しを増やし続けていく必要があると思っています。

また、第二言語習得や認知心理学のフレームワークを、より実践的に使えるようになりたいと思っています。「なぜこの方法が効果的なのか」など、より分かりやすく説明できる力を向上させたいです。

最後に、受講生の方は忙しいことが多いため、問題点・課題をシャープに分析して、必要な予復習を的確に提案できる力を磨きたいです。

Q.ご自身の知識・スキルについて、どのような点に課題を感じていますか。教えてください。



A.英会話スキル。英語で効果的な説明を加えたり、より適切な例を示したりといったことを即座にできないことがある。結果、授業後にメールでフォローになってしまう。またレッスン時に、受講生が早口で話すと内容が完全に理解しきれないときがある。特に英語ネイティブでない受講生の英語が課題。

A.日本語文法の知識、説明スキル、英会話スキルに課題を感じています。

Q.ご自身の知識・スキルについて、どのような点に課題を感じていますか。教えてください。



A.知識に関しては、反射的に答えられるレベルに達していないものが多いです。スキルに関しては、ロジカルに説明する力が十分でないと感じています。

A.効率的に日本語力を伸ばすために、何を捨てて何に集中すべきなのかを考える力。

Q.課題を念頭に、どのような取り組みを行っていますか。教えてください。



A.まずレッスンの引き出しを増やすための取り組みですが、他の講師から得られたヒントを、意識的にレッスンに取り入れるようにしています。

次にフレームワークの使い方については、認定試験の問題について、他の講師と話し合うようにしていました。月次ミーティングで扱うこともあるので、そうした機会を意識的に利用するようにしています。

最後に分析力・提案力の向上についてですが、スクールに相談できる仕組みがあるので、スクールからの提案を吸収し、自分のものにしていくようにしています。

Q.課題を念頭に、どのような取り組みを行っていますか。教えてください。



A.知識の課題に関しては、『みんなの日本語 初級』の「手引き」や「英語版」を研究したり、原沢先生の『考えて、解いて、学ぶ　日本語教育の文法』を読み込んだりして、自分用のまとめを作っています。

スキルの課題に関しては、論理的思考力や言語化力を身に着けるために、スクールで紹介された本を読むなどしています。また、常に「なぜ？」と問いを立てて考えるように、意識して取り組んでいます。

Q.課題を念頭に、どのような取り組みを行っていますか。教えてください。



A.「英語版」“Grammar Notes” の音読

A.英語の文法説明を読み、口頭で説明出来るよう音源を作って繰り返し練習しています。

A.毎回レッスン内容を考える際、受講生さんの中長期的な目的・目標と短期的な目的・目標を確認するようにしています。

Q.スムーズに業務に慣れていくために、採用前の自分にアドバイスをするとしたら、どのようなアドバイスをしますか。教えてください。



A.最初はわからないことも多いと思いますが、基礎からしっかり身につけ、フィードバックを積極的に活用し、焦らずに着実に自分のペースで成長していってください。「もっとこれをやっておけばよかった」という視点では、二つあります。

一つは、コンセプトが明確なスクールですので、自分だったらどのようにレッスンに反映させるか、よくイメージをしておきましょうということです。そのために、ホームページや募集要項をしっかりと読んで理解しておくことをお勧めします。

Q.スムーズに業務に慣れていくために、採用前の自分にアドバイスをするとしたら、どのようなアドバイスをしますか。教えてください。



A.（続き）もう一つは、必要な英語説明スキルを予め研鑽しておきましょうということです。

「受講生の理解を100%にする」というのは、達成できればやりがいが感じられる反面、本当に難しいことでもあります。日本語の分析という基本的なことはもちろん、英語での説明力を磨く必要もあるからです。

但し英語については、レッスンを進行したり、発問・解説したりするためのに必要な表現はある程度限られています。レッスンの英語に集中して、早めに研鑽をしておくことをお勧めします。

Q.スムーズに業務に慣れていくために、採用前の自分にアドバイスをするとしたら、どのようなアドバイスをしますか。教えてください。

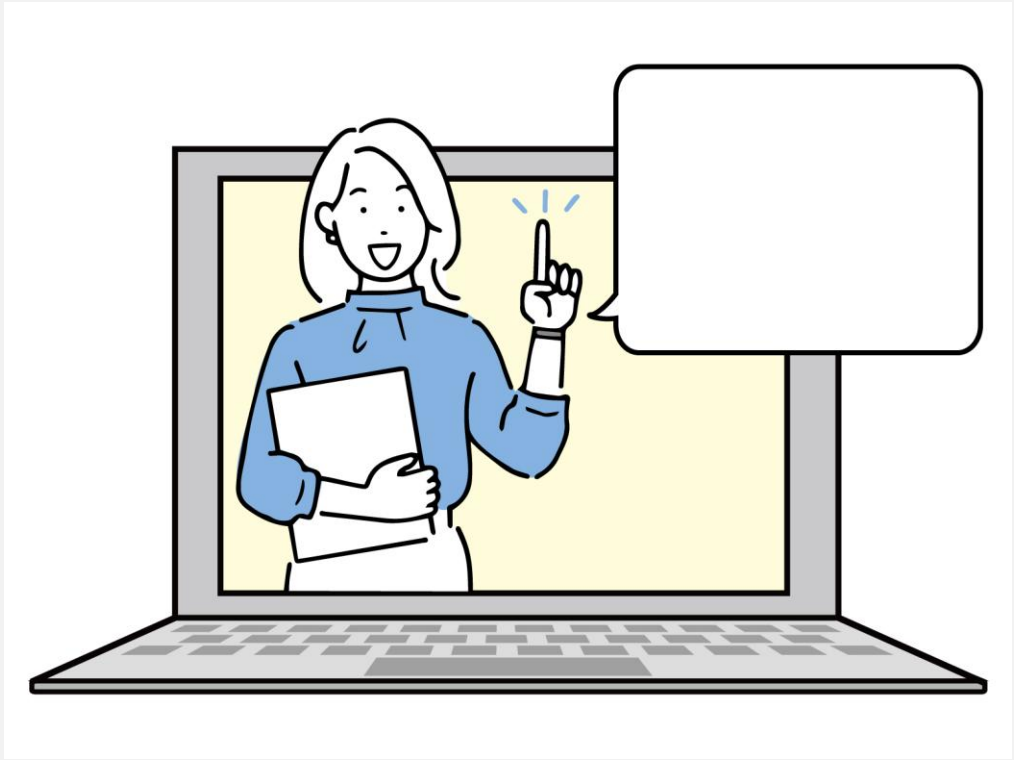


A.実際の業務を想定したオペレーションマニュアルを、できれば研修中から自分で作成した方がいい。もしくは教えてもらっておいた方がいい。

研修後に業務が始まって、わかっていないことが多くて戸惑ってしまった。トレーナーの顔が見えているときに小さな疑問は出来る限り解消しておいた方がいい。メール等の文面で質問するのは存外時間をとられる。

業務が始まったら、「自分がきちんと仕事を完遂できるか」よりも、「受講生にとって有意義な時間になるか」にフォーカスしたほうが、良い結果につながる。

Q.スムーズに業務に慣れていくために、採用前の自分にアドバイスをするとしたら、どのようなアドバイスをしますか。教えてください。



A.『みんなの日本語 初級』「手引き」から、指導方法やポイントを確認しておくこと。日頃から、論理的に物事を考えて、分かりやすく相手に伝える習慣をつけておくこと。英語での説明能力をつけておくこと。これらをアドバイスします。

A.『みんなの日本語 初級』の文法は、少なくとも日本語で教えられる状態になってから入った方がいい。

A.日本語教師歴はそれなりに長いと思いますが、わからないこと・知らないことはイチから謙虚に勉強していきましょうと伝えたいです。

03

今後なりたい講師像

Q.今後Akiraでどのような講師になりたいですか。教えてください。



A.ただ日本語を教えるだけでなく、受講生に成果を出していただきながら「日本語を学ぶことが楽しい。この先生から学び続けたい」と思っていただけるような講師を目指したいです。そのためにも、常に学び続け、理論と実践のバランスが取れたレッスンができる講師になりたいです。

A.文法の説明が完璧にできる。受講生の疑問を残さない。必ず効果が出るような演習を即座に提供できる。これら全部が出来たうえで、受講生をリラックスさせられる講師。

Q.今後Akiraでどのような講師になりたいですか。教えてください。



A.受講生様のニーズに合わせて、最短最速での道筋を立て、ゴールを実現していけるような講師になりたいです。

A.受講生様との信頼関係、講師の方々との信頼関係を築き、しっかりと成果を出せる講師になりたいと思っています。

A.日本語を教えるのが上手いというよりは、その瞬間の受講生さんに最も必要な学習項目・学習方法・時間の使い方等を選択し、実行できる講師になりたいと思っています。

04

後輩へのメッセージ

Q.これから後輩になる方へメッセージをお願いします。



A.このスクールでは、単に日本語を教えるだけでなく、受講生の成果を第一に考えた指導が求められます。だからこそ、講師自身も常に学び続け、成長し続けることが大切です。録画フィードバックや認定試験といった仕組みを活用したり、同僚の講師やマネージャーと積極的に意見交換をしたりしながら、より良いレッスンを一緒に作り上げていきましょう。受講生の成長を実感できたときのやりがいはとても大きいですよ。

A.研修はそれなりに大変ですので、絶対に成長したいという志をお持ちの方、日本語教師としての一定の経験をお持ちの方に良いスクールだと思います。

Q.これから後輩になる方へメッセージをお願いします。



A. Akiraは、日本語教師としてだけではなく、一人の人間としても大きく成長できる場所です。私はここで仕事を始めてから、毎日が挑戦の連続です。確かに大変なこともありますが、それ以上に自身の成長を実感でき、充実した日々を送っています。ぜひ、一緒に沢山の受講生の方に最高の日本語学習体験を提供しましょう。そして、自分自身も成長させていきましょう！

Q.これから後輩になる方へメッセージをお願いします。



A.不安になったときや、困難に遭遇したときは、どの講師でもいいから声をかけやすい人に相談するといいです。急に完璧にはなれないので、自分ができないことにフォーカスし過ぎず、ゆっくりでもいいので確実にステップアップできる道筋を見つけることが大事だと思います。

Q.これから後輩になる方へメッセージをお願いします。



A.このスクールでの仕事に一番大切なのは、日本語教師としての経験ではありません。新しい考え方や方法を学び、ステップアップしたいという気持ちです。一般的なスクールにはない、コンサルティングの視点で日本語教師の仕事を捉えているからです。新たなステージを目指してみたい方、ぜひ一緒にお仕事しましょう。

Next Stage, Together!


Akira